

# 令和4年度病害虫発生予察注意報第1号

令和4年5月27日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

県西部の砂畑ほ場において、べと病の発生が増加している。今後の気象条件によっては、急激に発病が増加する恐れがあるため、防除の徹底が必要である。

## 病害虫名：ネギべと病

- 1 対象作物 ネギ
- 2 発生地域 県西部
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い

## 5 注意報発令の根拠

- (1) 本年の現地白ネギほ場におけるべと病の発生時期は平年並である。
- (2) 県西部（現地調査ほ場）における5月24日現在の平均発病株率は18.0%（平年4.4%）で平年と比較して高い（表1）。
- (3) 5月25日現在、県東部と中部の現地調査ほ場における本病の発生は確認されなかった（表1）。
- (4) 向こう1か月の気象予報では、本病にやや好適な条件であり、引き続き発病の増加が見込まれる。

## 6 防除上注意すべき事項

- (1) 発病後のまん延が早いいため、発病前からの防除に努める。
- (2) 登録薬剤は、表2に示すとおり。
- (3) 同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数及び使用時期（収穫前日数）に注意して薬剤を選定する（表3）。

表1 県白ネギほ場におけるべと病の発生状況（5月24、25日調査）

地点	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率(%)	発病株率(%)
境港市	5	4	80.0	32.0
米子市	5	2	40.0	4.0
県西部全体	10	6	60.0(19.0)	18.0(4.4)
県東部	10	0	0	0
県中部	10	0	0	0

※調査対象は、県西部調査ほ場が春ネギ及び夏ネギ、県東部及び中部調査ほ場が秋冬ネギ。

※( )内の数値はH24年～R3年の5月下旬における平年値。

表2 ネギベと病の主な防除薬剤（令和4年5月26日現在の農薬登録内容）

薬剤名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	成分 (FRAC コード)	
アリエッティ水和剤	800 倍	収穫 3 日前まで	3 回以内	ホセチル (P07)	
アミスター20フロアブル	2000 倍	収穫 3 日前まで	4 回以内	アゾキシストロビン (11)	
オロンディスウルトラ SC	2000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内	オキサチアピプロリン (49)	マンジプロパミド (40)
カーニバル水和剤	1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	ジメモルフ (40)	TPN (M05)
ザンプロ DMフロアブル	1500～ 2000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	ジメモルフ (40)	アメクトラジン (45)
シグナム WDG	1500 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内	ピラクロストロビン (11)	ボスカリド (7)
ジマンダイセン水和剤	600 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	マンゼブ (M03)	
ピシロックフロアブル	1000 倍	収穫前日まで	3 回以内	ピカルブトラゾクス (U17)	
フェスティバル C 水和剤	1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	ジメモルフ (40)	銅 (M01)
フォリオゴールド	800～ 1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	メタラキシル M (4)	TPN (M05)
プロポーズ顆粒水和剤	1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル (40)	TPN (M05)
ペンコゼブフロアブル	500～ 600 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	マンゼブ (M03)	
ランマンフロアブル	2000 倍	収穫 3 日前まで	4 回以内	シアゾファミド (21)	
リドミルゴールド MZ	1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	メタラキシル M (4)	マンゼブ (M03)
レーバスフロアブル	2000 倍	収穫 7 日前まで	2回以内	マンジプロパミド (40)	

表3 成分ごとの総使用回数（令和4年5月26日現在の農薬登録内容）

成分名	総使用回数
アゾキシストロビン	5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内)
アメクトラジン	3回以内
オキサチアピプロリン	2回以内
シアゾファミド	4回以内
ジメモルフ	3回以内
TPN	4回以内(土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)
銅	—
ピカルブトラゾクス	3回以内
ピラクロストロビン	3回以内
ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内
ホセチル	3回以内
ボスカリド	3回以内
マンジプロパミド	2回以内
マンゼブ	3回以内
メタラキシル M	5回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は3回以内)